

発行：青森県教育庁教育政策課学校の幸せ推進室（〒030-8540 青森市長島1-1-1）

## 県PTA連合会主催研修会の紹介！ ～その2～

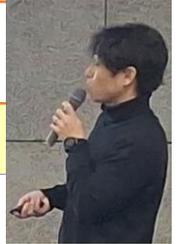


前号に続いて、県PTA連合会主催の研修会「保護者と先生が『共につくる学校』を考える会」（令和7年12月19日開催）の内容の一部を紹介します。前号では笹目東小学校教頭の崎山氏によるボランティア活動の充実等について紹介しましたが、今号は愛知県江南市立布袋中学校教頭 長瀬基延氏による講演内容、主に部活動改革等の取組を紹介します。ぜひ各校PTAとも共有し、取組の参考にさせていただけたらと思います！

講師

愛知県江南市立布袋中学校  
教頭 長瀬 基延 氏

【講演テーマ】  
生徒が主語の学校を地域・保護者と共につくる



### 学校改革は保護者・地域と一緒に！

この4年間を走ってきてもうこと

学校改革は、学校だけでは進まない

- ・教員だけでは、抱えきれないし知恵が足りない(発想が転換しない)
- ・生徒に任せるだけでも、乗り越えられないことも多いし続かない
- ・保護者の皆さんが「外側」にいと、誤解が生まれる



↓  
だからこそ必要だったのが、保護者や地域の方の「伴走」という関わり

※講演資料より抜粋

「当事者」が増えた学校は、前に進める

- ・学校運営の当事者が、教職員だけでなくったことが心強い
- ・伴走してくださる保護者がいる学校は、必ず好循環を生む

だからこそ、

- ・完璧な意見でなくていい
- ・正解を出さなくていい
- ・一緒に考え、迷ってほしい

※講演資料より抜粋

保護者や地域の方の伴走が学校改革の大きな後押しに！！

### 部活動を考える会！

部活動を考える会 対話の場 (2022～2023年 8回)

- ・教員だけでなく、保護者・地域指導者・地域住民・生徒も一緒に話し合い
- ・国の方針や通知等の情報共有
- ・市の地域クラブ設置等の状況を共有
- ・実態アンケート結果を基にした対話
- ・学校部活動の地域展開・移行を見据えた議論
- ・議事録の公開(学校 HP、PTA委員会等での発信)



※講演資料より抜粋

教員、保護者、地域指導者等に加えて、主役である生徒も話し合いに参加することに大きな意義があります。更に、「どのくらいの時間・頻度で活動したいか？」などの項目を含むアンケート調査をすることで、生徒の本音や実態が明らかになり、改革の方向性が見えてきます！

チーム顧問制による組織は、毎年アップデートされています！

#### 2023年度のチーム顧問

区分	部活動	指導者
運動部	A 軟式野球・ソフトボール・サッカー	8名
	B 水泳・ソフトテニス・陸上駅伝	12名
	C バスケットボール・バレーボール・剣道	10名
文化部	D 吹奏楽・美術・茶華・パソコン・文芸	6名

※ 大会参加等の外部対応が必要な部には担当者を置いている

#### 2024年度のチーム顧問

区分	部活動	指導者
屋外	A 軟式野球・ソフトボール・サッカー 水泳・ソフトテニス・陸上駅伝	教員19名 地域3名
	B バスケットボール・バレーボール・剣道 吹奏楽・美術・茶華 パソコン・文芸	教員13名 地域6名

※ (株) 先生の幸せ研究所資料より抜粋

### 保護者や地域の方に意見をもらいながら進めた部活動改革

#### 布袋中学校の部活動改革

平日は週3回、各30～80分  
休日は月3回に短縮

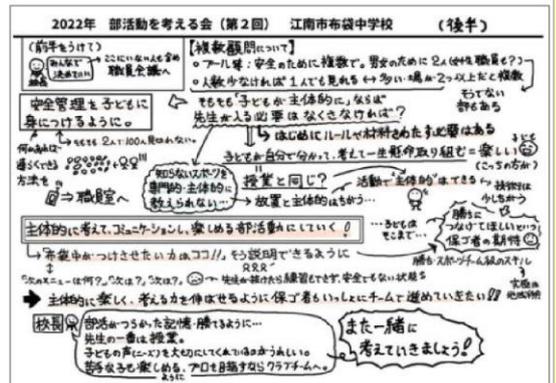
生徒自身が考え決定する  
生徒主体の部活動

運動部3チーム・文化部1チーム  
に各6～12名の教員を配置

「部活動を考える会」で  
対話の場を設定

地域クラブの情報提供や  
チラシを配布し、参加を推奨

…など



2023.12.1教育新聞より

※講演資料より抜粋

# 家庭学習を考える会！

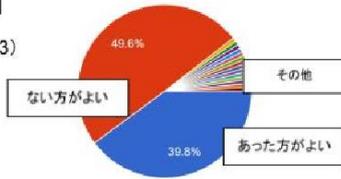
家庭学習を考える会 教員・生徒・保護者・地域の方と「家庭学習」を共に考える対話の場



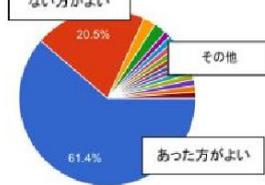
※講演資料より抜粋

1 毎日の宿題はあった方がよいですか

【生徒】  
(n=133)



【保護者】  
(n=86)



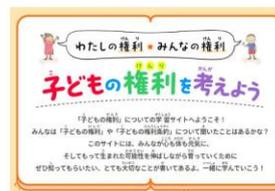
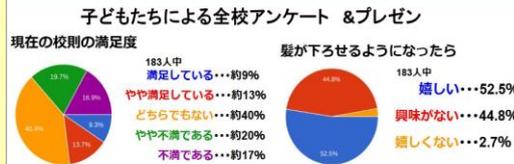
「どの生徒にも一律に課す宿題に、果たして学習効果があるのか？」という大きな疑問が、この会を生み出すきっかけとなりました。

宿題の必要性について、生徒だけではなく保護者にもアンケート調査を実施しています。両者の考え方の傾向に違いが見られるなど、とても興味深い結果です！

# 心得（校則）改訂プロジェクト！

心得改訂プロジェクト 子どもたちの声を聞き、保護者の意見を伝える対話の場

校則について、生徒主体で見直しを図っています。更に保護者との対話の場を設けたり、「子どもの権利」について触れたりすることで、より広い視点で考えることができます！



布袋中HPより

※講演資料より抜粋

## ◆ まとめ ◆ “関わり”のポイント！

「共に考える」関わりでは 学校の課題を「学校の外」に開き、共に考えた

- ・結論ありきではない対話
- ・立場の違いを前提に「思い」を出し合う
- ・「決める」より「そろえる」ための場

学校が単に説明責任を果たすためだけの場ではなく、互いに本音を出し合う交流を通して、「歩幅を合わせる場」とすることが大切です！！

※講演資料より抜粋



◆保護者や地域の方々、主役である生徒と丁寧に対話を重ながら、教育活動の方向性を一緒に考える取組がとても参考になった。日頃から生徒や教職員の思いを大切に、皆が同じベクトルに向かっていることもとても重要だと感じた。この取組が学校改革に一歩踏み出すための大きなパワーになると思った。  
(小学校校長)

◆業務改善が進む中、保護者とのコミュニケーションが本校の課題であったため、保護者と対話しながら合意形成を図る長瀬先生の実践に大きなヒントをいただいた。早速、来年度4月の参観日に各部活動毎に保護者と対話する機会を設けることにした。今後は宿題など学習のあり方等についても検討したい。  
(中学校校長)